
P29-04 A病棟における介護職の退院指導後の評価

内野 美奈、内田 多鶴子、佐野 七海、吉永 しのぶ、福本 裕二
社会医療法人白十字会燿光リハビリテーション病院

【研究目的】他職種と退院後訪問に同行し、実際の在宅生活の場から、現行の退院指導を振り返り、今後の課題を考える。【研究期間】 H28.4～H28.12【研究対象者】 介護職 17名 退院後訪問事例 6件【研究方法】介護職に退院指導、退院後訪問に関するアンケートを実施後、訪問時チェックシートを作成し事例6件の観察を行った。【結果】 1.訪問時確認事項は「排泄、食事、環境、表情、入浴、移乗」状況、指導内容は「オムツ交換、陰部洗浄、体位変換、移乗、食事、更衣、歩行訓練、手浴、足浴」であった。2.活かされていた指導は「排泄、食事、移乗」であり、QOLの低下は認めず「オムツ漏れ、リハビリ、訪問介護とのトラブル、余暇」などの問題を確認した。【考察】退院前の患者、家族は在宅の介護に対して負担や大きな不安を担うと思っていたが、予想以上に介護の受け入れ、状態の安定が維持出来ていた。また家族から訪問介護者に指導したケアの共有も確認でき、退院後訪問に同行する事は、指導の確認や患者と家族の表情、在宅生活で生じた課題を考える場となっており、多職種が連携することの重要性を再確認できると考える。【結論】1.介護職の退院指導は、排泄面に関わることが多く患者や主介護者によって工夫が必要である。2.介護職が退院後訪問に同行することは、介護指導の確認や患者、家族の思い、問題点を知り考える場となり、患者や家族が介護の相談が行へ有用である。